

事後評価結果（平成26年度）

担当課：北陸地方整備局 道路部 道路計画課
 担当課長名：掛井 孝俊

事業名	一般国道159号 ^{つばた} 津幡バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：石川県かほく市 ^{うちひすみ} 市内日角 至：石川県金沢市 ^{かなざわしいまち} 今町	延長	11.6km		

事業概要
 一般国道159号津幡バイパスは、地域高規格道路「月浦白尾IC連絡道路」の一部であり、国道159号の石川県かほく市内日角～金沢市今町間の延長11.6kmについて道路整備を行ったものである。

事業の目的・必要性
 一般国道159号津幡バイパスは、「能登地域と金沢都市圏との連携強化」「慢性的な交通混雑の解消」「沿道及び能登地域の地域経済や観光の活性化」を目的とした事業である。

事業概要図

【広域位置図】



【位置図】



事業の 効果 等	事業期間	事業化年度： S46年度 都市計画決定： S47年度	用地着手： S47年度 工事着手： S48年度	供用年： (当初) — / H16 (暫定/完成) (実績) / H21	変動	1.2倍
	事業費	計画時 (名目値) — / 475 億円 (暫定/完成) (実質値) — / 514 億円	実績 (名目値) — / 557 億円 (暫定/完成) (実質値) — / 606 億円		変動	1.2倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成) / 84,100 台/日	実績 (暫定/完成) / 54,900 台/日		変動	65%
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	37.6 → 65.2 km/h (供用直前年次) S52年度 (供用後年次) H22年度	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道+当該路線)	51 → 39 件/億台キロ (供用直前年次) S62年度 (供用後年次) H24年度		
費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C : 3.9	総費用 : 717 億円 (事業費 : 670 億円 維持管理費 : 47 億円)	総便益 : 2,762 億円 (走行時間短縮便益 : 2,209 億円 走行経費減少便益 : 405 億円 交通事故減少便益 : 148 億円)	基準年 : 平成13年		
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C : 3.1	総費用 : 1,353 億円 (事業費 : 1,193 億円 維持管理費 : 160 億円)	総便益 : 4,205 億円 (走行時間短縮便益 : 3,270 億円 走行経費減少便益 : 519 億円 交通事故減少便益 : 416 億円)	基準年 : 平成26年		
事業遅延によるコスト増	費用増加額 : 68 億円	便益減少額 : 1,205 億円				

	<p>事業遅延の理由 本事業は昭和46年度に事業化され、同年に用地着手し平成16年度の完成供用を目指したが、内日角地区での構造(現拡→高架)変更や軟弱地盤対策としての地盤改良等の対応のため、事業が遅延したものである。</p> <p>客観的評価指標に対応する事後評価項目 I. 活力 (1) 円滑なモビリティの確保 ・津幡町舟橋における渋滞は全線4車線開通後は渋滞が解消。 ・旧8号・旧159号における旅行速度が向上し時間短縮が実現。 (2) 都市の再生 ・沿道において多くの大規模な住宅団地の整備が進められ、人口は約1.5倍、世帯数は約2倍に増加(井上の荘:31ha、北中条:29ha、津幡ニュータウン:30ha)。 (3) 国土・地域ネットワークの構築 ・「月浦白尾IC連絡道路」として、地域高規格道路の位置づけあり。 (4) 個性ある地域の形成 ・沿道において北陸最大級のショッピングセンター等が開業し、沿線市町の年間商品販売額が7%、売り場面積は61%増加。 ・能登半島に多く存在する観光施設へのアクセス性が向上。 III. 安全 (1) 安全な生活環境の確保 ・旧8号・旧159号区間の死傷事故率は大幅に減少。 (2) 災害への備え ・第一次緊急輸送道路として位置づけあり。 V. その他 (1) 他機関との連携プログラムに関する効果 ・石川県の長期構想「ダブルラダー結いの道」構想の実現に向けたネットワーク強化が図られた。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目 特になし</p> <p>その他評価すべきと判断した項目 特になし</p>
事業評価監視委員会の意見	<p>事業評価監視委員会の意見 ・事業の効果が発現しており、当該事業に関しては今後の事後評価及び改善措置等は必要ないとした事業者の判断は妥当である。</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・沿道では土地区画整理事業が進められ、供用後から現在まで、人口世帯数が増加。</p>
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 ・国道159号津幡バイパスは、金沢都市圏と能登を結ぶ主要な幹線道路として、渋滞緩和による交通の円滑化や死傷事故の減少、地域の発展など様々な役割を果たしている。 ・全線4車線開通により、事業の目的である「金沢都市圏と能登地域の連携強化」「交通混雑の緩和」等の効果は得られており、今後も事業効果の発現は継続していくものとする。 ・津幡バイパスについては、事業実施による環境の大きな変化、また社会情勢の大きな変化はなく、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないと考えるが、必要に応じて交通量調査等を実施し事業の効果や対策の必要性等を確認していきたい。</p>

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- ・当該事業は、地域経済の活性化等を目的とした事業であるが、商業の振興効果など一部において、定性的、マクロ的な整備効果となった。
- ・同種事業の計画・調査にあたっては、事業着手前から経済や観光に係る関係者から情報収集を行うなど、道路整備による多面的な効果の把握に努める必要がある。
- ・なお、事業評価手法の見直しの必要性については、整備目的の効果を確認していることから、見直しの必要性は無いと考えるが、今後はビックデータ等を用いた詳細なデータ収集結果に基づく評価に努める。

特記事項

特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。